

eepf

サステイナブル経営入門セミナー

本セミナー構成はサンプルです。

回数や内容を調整し、貴社独自の「サステイナブル人材育成セミナー」としても提供いたします。

1. 本セミナーの目的

本セミナーは、近年企業が求められるESG※などの非財務の企業価値の向上を念頭に、持続可能な企業体質に貢献できる人材の育成を目的としています。

具体的には「環境に配慮したサステイナブル企業」で必要とされる「サステイナブル社会のあるべき姿」を描くことから始まり、事業開発、製品開発でのサステイナブル視点の生かし方を学び、参加者で共有します。自社の社会的責任の果たし方を社内共有することで、企業価値の向上につながり、しいては従業員のモチベーションの向上とビジョンの共有が可能となるほか、リクルーティングでの自社の魅力をアピールすることにも貢献します。

※ESG

「Environment=環境」「Social=社会」「Governance=企業統治」の頭文字を取った言葉で環境問題や社会的規範、コーポレートガバナンスの観点のことで、近年は企業がステークホルダーや金融機関に対して行う情報開示にも求められる項目となっています。

2. 本セミナーの対象

- ・ 経営者
- ・ 一般社員（各部署のキーマン含む）
- ・ 新入社員

3. 本セミナーの目標

[知識の吸収] 講義とディスカッション

1. 持続可能な世界観が具体的に理解できる
2. 現状の持続可能でない点を指摘できる
3. 持続可能でない点の改善方法を考えることができる

[取り組み] ディスカッションと行動

1. 具体的な課題をあげその対策を検討し、実施を目指す

4. 本セミナーの構成サンプル（全9回の例：月1回60分/対面+オンライン混在可能）

本構成は1回から9回の構成で調整することができます。

講義40分とディスカッション20分の組み合わせた合計が約60分構成です。

講義とディスカッションの時間配分は進行により変わります。

セミナー形式は御社での対面が基本ですが、内容によってはオンラインも可能です。

第1回

今求められる環境への取り組み方

第2回

理想の世界観“Sustainable Planet”から見た現在設計（デザイン）の重要性

第3回

SX※で生まれる新たな市場と事業開発

第4回

EUの動向「EUの設計指針」

第5回

企業に求められる各種指標やデータ

第6回

社内でのSXの進め方

第7回

自社の具体的な課題を挙げる

第8回/第9回

課題に対する改善策を挙げてできる範囲で具体化する。

※SXとは「Sustainability Transformation(サステナビリティ・トランスフォーメーション)」の略で、企業が短期的ではなく長期的な「持続可能性」を重視し、ビジネスの安定だけでなくESGを両立する企業経営を行えるように変革していくことを指します。

キースライド

価値観や行動原理を環境視点の世界観に変えることが第一歩です。
= これは産業革命よりも規模の大きなパラダイムシフトと言えます。

SX Sustainability Transformation

(旧来) 社会・経済視点の世界観 → (現在) 世界観の変革を求め始めた → (今後) 環境視点の世界観

地球環境
社会・経済

Source: © 2023 Environmental Education Promotion Forum All rights reserved.

サプライチェーン排出量の算出(LCA)の連鎖を見据えた
サプライチェーンマネジメントが必要

原材料 → 部品・素材メーカー → 組み立てメーカー → 販売メーカー → USER (企業・個人)

循環経済: リサイクル, リユース, 自然再生

動脈経済: 生産, 消費

例: Suica, PLADA, HEAVENS, ZARA, Apple, Cross, Amazon, Microsoft, Meta, ユニクロ, adidas, Nike

Source: © 2023 Environmental Education Promotion Forum All rights reserved.

Sustainable Planet

Protection, Regeneration, Raw material, Production, Nurturing, Harvest, Recycling, Use

Source: © 2023 Environmental Education Promotion Forum All rights reserved.

リークエワーエコノミー (循環経済) の考え方

From a linear to a circular economy

Linear economy: Raw materials → Production → Use → Non-recyclable waste

Reuse economy: Raw materials → Production → Use → Non-recyclable waste

Circular economy: Raw materials → Production → Use → Recycling → Raw materials

13Rは3R: Reduce, Reuse, Recycle

Source: © 2023 Environmental Education Promotion Forum All rights reserved.

SXで生まれる新たな市場

Sustainable Loop

同業・政府・金融・投資

- 全産業
- 社会課題
- 循環視点の知恵とデザイン
- 製品開発イノベーション
- 社会課題解決新市場の獲得

Waste

Source: © 2023 Environmental Education Promotion Forum All rights reserved.

サステナビリティを支える世界の枠組み

国連グローバルコンパクト (1999年)

PRG (2006年)

SDGs (2015年)

ESG (2011年)

SDGs 2000-2015年, SDGs 2015-2024年

Source: © 2023 Environmental Education Promotion Forum All rights reserved.

EUの設計指針詳細

EUエコデザイン規則法案 → Digital Product Passport (DPP)

ESPR (Ecodesign for Sustainable Products Regulation) 法案
2022.3月欧州議会採決 → 2023.7月発効

■ 信頼性に関する要件 (下記の情報の提供が求められている)

- durability (耐久性)
- reliability (信頼性)
- reusability (再利用可能性)
- upgradability (更新可能性)
- reparability (修理可能性)
- possibility of maintenance and refurbishment (メンテナンスや改修可能性)
- presence of substances of concern (懸念物質の存在)
- energy use or energy efficiency (エネルギー利用とエネルギー効率)
- resource use or resource efficiency (資源利用と資源効率)
- recycled content (リサイクル材含有率)
- possibility of remanufacturing and recycling (再製造とリサイクル可能性)
- possibility of recovery of materials (再資源化可能性)
- environmental impacts, including carbon and environmental footprint (環境影響)
- expected generation of waste materials (予想される廃棄物発生)

Source: © 2023 Environmental Education Promotion Forum All rights reserved.

企業のSXの進め方

3 守り (Keep) → 1 SX (Sustainability) → 2 攻め (Attack) → 1 自社の価値を再構築 (Rebuild value)

自社の価値を再構築
自社が必要とされる
社会に貢献できること
サステナブルゴールの達成

Source: © 2023 Environmental Education Promotion Forum All rights reserved.